

「第二のふるさと龍ヶ崎」

龍ヶ崎二高 3年瀧澤日菜乃

皆さん、こんにちは。私は先日、龍ヶ崎二高を卒業した、瀧澤日菜乃と申します。私は高校1年生の頃から約3年間、龍ヶ崎市内で地域おこしを中心とした様々なボランティア活動をしてきました。こうしてこの場にたってお話できる機会を頂けたこと、大変嬉しく思っています。

社会福祉協議会の皆さんありがとうございます。

本日はこの場をお借りして、3年間の活動の内のほんの1部にはなってしまいますが、皆さんにお話できればと思います。よろしくお願ひします。

私は実は龍ヶ崎市の市民ではありません。実はここ龍ヶ崎には、電車とバスを使って片道約1時間半かけて来ています。

龍ヶ崎市とは、龍ヶ崎二高に通うまで関わる機会にはほぼありませんでした。

そして、人と関わるということも正直苦手でした。

不思議ですよね・・・私も正直驚いています。

きっかけはほんとに単純で、「とにかく経験をしたかった」それだけなんです。それでとにかくボランティアに参加しまくっていた結果、今では年齢や国籍の壁を超えて、沢山の方と関われるということが楽しくて仕方ない体になってしまいました。そして、誰かのために頑張れるということが今の1番の生きがいだとすら思っています。

私がこのように変わったのは社会福祉協議会の存在があったからだと思っています。

社協では私は主にふれ愛縁日やふれ愛クリスマスをはじめ、地域イベントの企画や運営に携わる機会を多く頂きました。

思い出深いイベントは沢山ありますが、その中でも特に印象に残っているものを紹介させてください。

去年の7月末に川原代コミュニティーセンターで行われたイベントです。その一部で社協の代表として、皆さんおなじみのジャンボリミッキーを踊ったり、じゃんけん列車をやったりなどのレクリエーションを企画し、実施しました。

子供達との年齢差は最大で12歳・・・いやー・・・遊ぶもの、聞く曲、全くわかりませんでした。実際、ネットで検索しまくっていました。

そして当日も子供達に楽しんでもらえるのかめっちゃくちゃ不安でした。

ですが、自分が考えたレクを全力で楽しんでもらっている子供達の姿、終わった後に子供達から言われた「レクが一番楽しかった」「ありがとう」の言葉がとにかく嬉しくて、それまでの疲れが吹っ飛んで行きました。

そしてこれまでの経験から私は物事に対して先入観にとらわれないことの大切さを学びました。企画をし始めた当初は障害の有無や年齢からこんな場面が想定されるといったことを思い込んで行っていたところがありました。ですが、当日をいざ迎えて見ると予想していたものとは違い、私の目に写ったのは子供達のキラキラ輝く笑顔そして夢中に楽しむ姿。障害の有無そして年齢は関係ないんだなと先入観にとらわれてはいけないということを改めて教えられてしまいました。

社協という団体を知ったからこそ、これらの学びや経験ができたと思っています。

そして、社協の職員の皆さんを通じて市内の様々な団体や市民の方々とも関わらせていただきました。

皆さんは市内にボランティアや市民活動団体がいくつあるかご存知ですか？社協と市民活動センターに登録されている団体だけでも200団体以上あるそうです。それだけ多くの方が市や誰かのために活動しているって本当にすごいことだと思いませんか？

3年間の内に活動している団体すべてと関わることはできなかったんですが、一緒に活動して思ったことがあるんです。

今の世の中、医者とかアスリートとか色々な分野で活躍しているすごい人はいますけど、私はそれに負けないくらい、この龍ヶ崎市内で市や誰かのために頑張っている団体の方々たちが本当にすごいし、カッコいいなと思いました。

活動の中で色々な課題や問題があったと思います。その中でも懸命に活動する姿、本当にかっこよかったです。

そのような方々とともに今日この日まで関わりを持てたことを大変嬉しく思います。

最後にはなりますが、この話を聞いて龍ヶ崎市の為に活動している団体の方や市民の方が沢山いることそしてボランティアというものを通じて龍ヶ崎市を好きになった私のような事例があることを少しでも多くの方に知って今日帰ってもらえたら嬉しいです。

これで発表を終わりにします。ご清聴ありがとうございました。